

使用済燃料対策ロードマップの見直し

2025年2月13日

関西電力株式会社

当社は、使用済燃料対策を着実に実施していくため、使用済燃料対策推進計画を補完する指針として、2023年10月に使用済燃料対策ロードマップ（以下、ロードマップ）を策定しました。

[2023年10月10日お知らせ済み]

この度、当社は、以下の通りロードマップの見直しを行いました。

<日本原燃株式会社 六ヶ所再処理工場>

- ・六ヶ所再処理工場は、2027年度から再処理を開始し、2028年度から使用済燃料の受入れを開始
- ・再処理工場への当社の使用済燃料の搬出において、2030年度まで3年間で198トン（同期間における再処理量の約6割）を搬出

<使用済MOX燃料 再処理実証研究>

- ・使用済MOX燃料の再処理実証研究について、実証研究の実効性向上を目的としたデータの充実化のための使用済燃料の搬出容量枠を約200トン追加（実証研究における当社からの使用済燃料の総搬出量は約400トン）
- ・その内の100トンについては、2030年度から搬出を開始予定。

今後、このロードマップに従い使用済燃料の県外搬出を確実に進めてまいります。

以 上

（別紙）

- ・使用済燃料対策ロードマップ

（参考）

- ・使用済燃料貯蔵量推移見通し

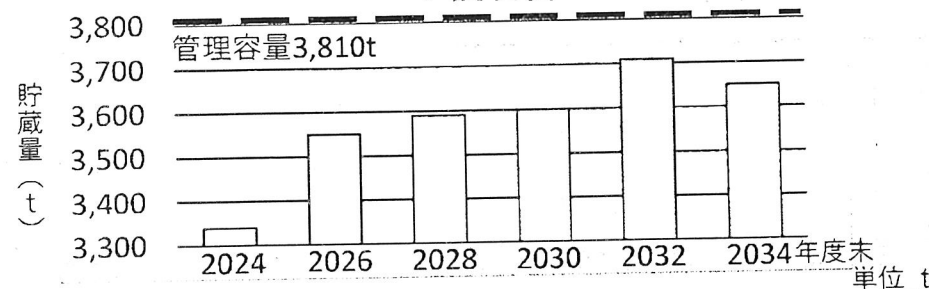
- ・六ヶ所再処理工場の2026年度中の竣工に向け、関西電力を中心に、審査・検査に対応する人材を更に確保
- ・2027年度から再処理開始、2028年度から使用済燃料受入れ開始。再処理工場への関西電力の使用済燃料の搬出において、2030年度までの3年間で198tを搬出（全体再処理量の約6割）。その後も必要量を確保し搬出するよう取り組む
- ・使用済MOX燃料の再処理実証研究のため、2027年度から2029年度にかけて高浜発電所の使用済燃料約200tを仏国オラノ社に搬出、データ充実化が必要になったことを踏まえ、さらに200t関西電力から搬出容量枠を確保し、まず2030年度から100tを搬出する
- ・中間貯蔵施設の他地点を確保し、2030年頃に操業開始
- ・中間貯蔵施設の操業を開始する2030年頃までの間、六ヶ所再処理工場および仏国オラノ社への搬出により、使用済燃料の貯蔵量の増加を抑制
- ・あらゆる可能性を組み合わせる必要な搬出容量を確保し、着実に発電所が継続して運転できるよう、環境を整備する
- ・本ロードマップの実効性を担保するため、今後、原則として貯蔵容量を増加させない
- ・使用済燃料の中間貯蔵施設へのより円滑な搬出、さらに搬出までの間、電源を使用せずに安全性の高い方式で保管できるよう、発電所からの将来の搬出に備えて発電所構内に乾式貯蔵施設の設置を検討

年度	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	
六ヶ所再処理工場		竣工	各電力会社の使用済燃料の再処理									
			下期 70t	上期 60t	下期 110t	上期 0t	下期 90t	(徐々に800tに増加)	800t	800t	800t	800t
			各電力会社の使用済燃料受入れ									
			130t	110t	90t*	(徐々に800tに増加)	800t	800t	800t	800t		
			関西電力からの使用済燃料搬出量									
			78t	66t	54t	(その後も必要量を搬出)						
使用済MOX燃料 再処理実証研究	高浜発電所から仏国搬出（オラノ社への搬出 200t+100t）											
			70t	70t	60t	100t						
中間貯蔵施設	中間貯蔵施設 操業											

※ 受入れ量は前年度下期と当年度上期の再処理量の合計値であるが、2030年度上期の再処理量が公表されていないため、2029年度下期の再処理量の値を記載

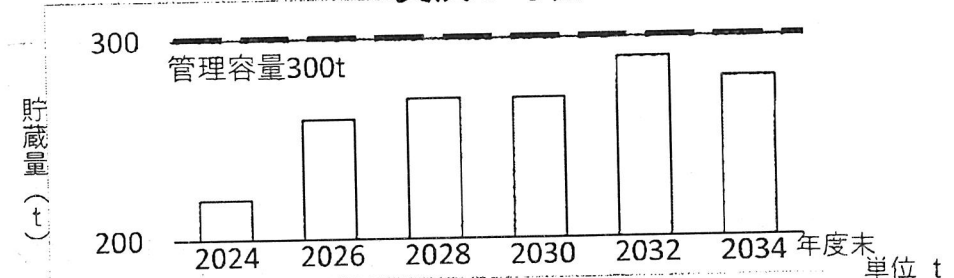
見直したロードマップに従って、六ヶ所再処理工場、仏国(200t+追加100t)へ搬出することで、使用済燃料貯蔵量は管理容量以下で推移し、将来的には使用済燃料貯蔵量が減少する見通し。

7 基合計



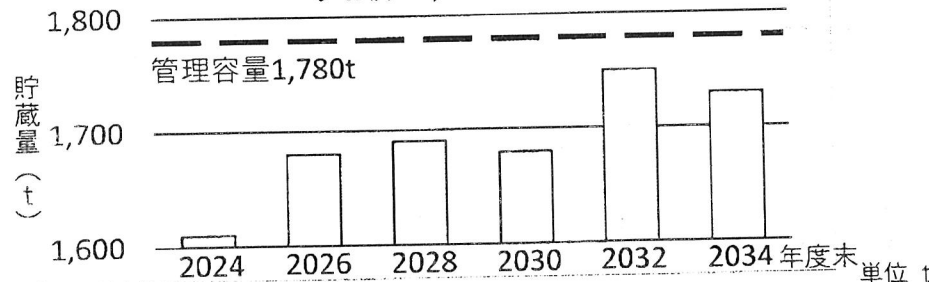
年度	2024	2025・2026	2027・2028	2029・2030	2031・2032	2033・2034
発生量(2年分)	—	210	260	260	260	260
搬出量(2年分)	—	0	220	250	150	320
期末貯蔵量	3,340	3,550	3,590	3,600	3,710	3,650
期末空き容量	470	260	220	210	100	160

美浜 3 号機



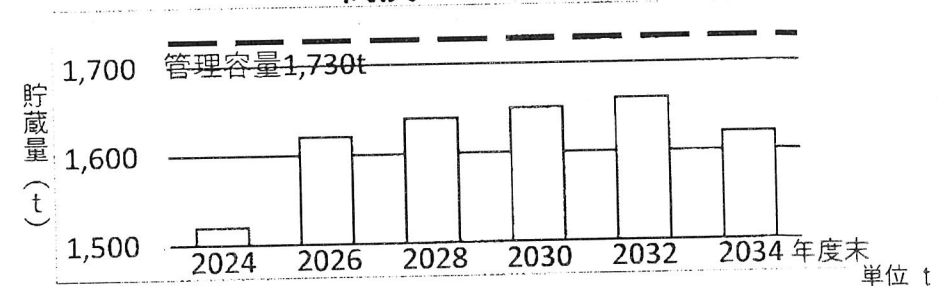
年度	2024	2025・2026	2027・2028	2029・2030	2031・2032	2033・2034
発生量(2年分)	—	40	40	30	30	30
搬出量(2年分)	—	0	30	30	10	40
期末貯蔵量	220	260	270	270	290	280
期末空き容量	80	40	30	30	10	20

大飯 3, 4 号機



年度	2024	2025・2026	2027・2028	2029・2030	2031・2032	2033・2034
発生量(2年分)	—	70	60	80	80	80
搬出量(2年分)	—	0	50	90	10	100
期末貯蔵量	1,610	1,680	1,690	1,680	1,750	1,730
期末空き容量	170	100	90	100	30	50

高浜 1～4 号機



年度	2024	2025・2026	2027・2028	2029・2030	2031・2032	2033・2034
発生量(2年分)	—	100	160	140	140	140
搬出量(2年分)	—	0	140	130	130	180
期末貯蔵量	1,520	1,620	1,640	1,650	1,660	1,620
期末空き容量	210	110	90	80	70	110

前提条件
・2024年度末貯蔵量は見込値、発生量は2025～2027年度運転計画に基づき評価、2028年度以降年間平均発生量
・六ヶ所再処理工場：2026年度竣工、受入量：2028～2030年度130-110-90t、その後段階的（200t-400t）に増加し、2033年度以降800t
当社搬出量は2028～2030年度全体受入量の60%、2031年度以降20%
・仏国への搬出：2027～2029年度70-70-60t、追加分100t：2030・2031年度70-30t

注）・期末貯蔵量は2024年度末貯蔵量をもとに2年間毎に発生量を加え、搬出量を引いたもの
・四捨五入の関係で7基合計と各発電所の合計値が合わない場合がある